



## 住みやすい町を目指して...②

# 松田町無形文化財「大名行列赤坂奴」

松田町大名行列保存会 会長 渡邊 興治郎 (町屋在住)

松田町の無形文化財である「大名行列赤坂奴」は、明治初期、殿様の大名行列の形を神社の祭礼行事に取り入れようと、大久保藩ゆかりの方をお願いをして、許可を得て「奴振り」を伝え受けたのが、始まりとされています。そのため、以前は寒田神社祭礼の日に御輿等の行列に加わって、町内を巡っていましたが、途中、大正、昭和と地震、戦争で中断はしましたが、昭和46年に町の無形文化財に指定され、昭和51年に「大名行列保存会」の組織のもと運営することになりました。昭和52年には、「神奈川県民俗芸能50選」に選ばれました。

大名行列保存会の発足と共に、町民の皆様のご協力を得て、会員数は現在、約2,150世帯(寄を除き60%以上の世帯)となり、町の補助金と合わせ運営されています。毎年行われる町の一大イベント「まつだ観光まつり」に参加し、祭りの花形として町内を練り歩き、町内外から訪れた観客の目を楽しませています。過去には、北海道、山形、東京と町外においても奴振りを披露し、広く松田町を知っていただく機会になっています。

奴振りは、松田町商工青年会有志の方々を中心に、8月に入ると町の体育館に集まり、保存会師匠の指導のもとに練習を行います。先頭からお弓、先箱、毛槍、大鳥毛の順に並び総勢15名で構成されてい

ます。

この奴振りを次世代に引き継いでいくため、子どもの頃から親しんでもらおうと、中学校の総合学習で学び、夏休みには、「民俗芸能伝承教室」を開き、中学生に奴振りの指導を行っています。小学生も総合学習で学び、運動会の種目で奴振りを行うなど、子ども達が地域の伝承文化に触れる機会を持ち、伝承の礎になっています。実際に観光まつりの大名行



列には、保育園、幼稚園、小学生、中学生、青年奴と奴の後ろには、供侍、お駕籠、腰元等が続き、総勢250人程で町内を練り歩き、祭り会場に入ります。

この裏では、30年以上演技者の衣装の着付けをしてくださっている「体協レクリエーション部」の方を中心にボランティアで、衣装の点検から着付けまで一手に引き受けていただいています。

しかし、唯一気がかりなのは、着付けボランティアの方の高齢化です。ぜひ、多くの方に新たにボランティアとして参加していただけたらと願うところです。「赤坂奴」の踊り手も年々減り、今では毎年隊列を組む15名を揃えるのが難しい状況が続いています。奴振りを絶やすことなく次世代に引き継ぐには、第一に「人材の確保」です。時代の変化と共に大変難しい問題ですが、町民の皆様のご協力がぜひとも必要です。よろしくお願い申し上げます。

※「住みやすい町を目指して」活動されている方や団体が、このコーナーに掲載を希望される場合は下段までご連絡ください。

## 皆さんの傍聴をお待ちしています! 第3回定例会は8月27日(木)

委員	委員	委員	委員	副委員長	委員長	議会広報委員会
鈴木	齋藤	小澤	利根川	石内	飯田	
眞徳	永啓	司茂		浩	一	

夏本番。いかがお過ごしでしょうか。国会では、重要案件の継続審議が続いています。松田町議会も、この9月には、改選期を迎えます。更には、望ましい議会を目指して、その方向付けを現在計画中です。この機会にぜひ、議会の傍聴にお出かけください。また、読みやすい紙面づくりにも、皆様からのご意見等をいただき、一層の努力を続けてまいります。(石内)

